マーケット・レポート

情報提供資料 2026年11月6日

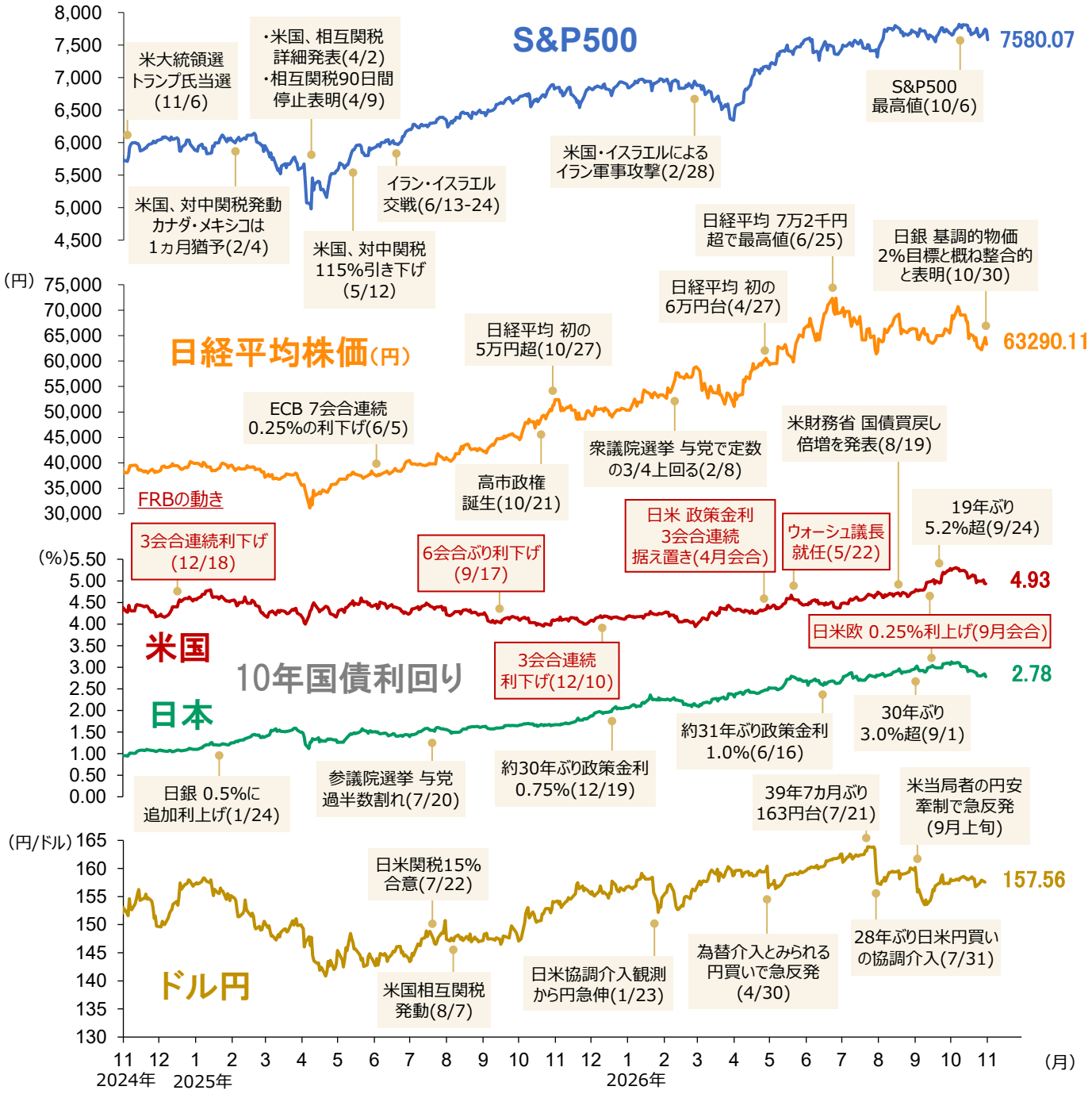
Monthly Guide 2026年 11月号

りそなアセットマネジメントのYouTubeチャンネルで、最新のマーケット情報を配信しています！

二次元バーコードをクリック or タップしてご覧いただけます

＜2026年10月の主要マーケットの推移＞

- **S&P500**：月初に最高値を更新したものの、過剰投資の懸念などからAI関連株が下落し、月間では▲0.9%と続落しました。
- **日経平均株価**：米新興AI企業の信用不安をきっかけにAI・半導体関連株に対する売りが膨らみ、3ヵ月ぶりに反落しました。
- **米10年国債利回り**：一時5.3%台まで上昇しましたが、月末にかけて株式からの資金流入が進み4.9%台前半に低下しました。
- **ドル円**：介入警戒感が上値を抑える一方、実需筋の円売り・ドル買いが下値を支え、158円を中心にもみ合いが続きました。



※ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

※グラフ内の数値は直近月末値(終値)

中期見通し（今後1-3年）

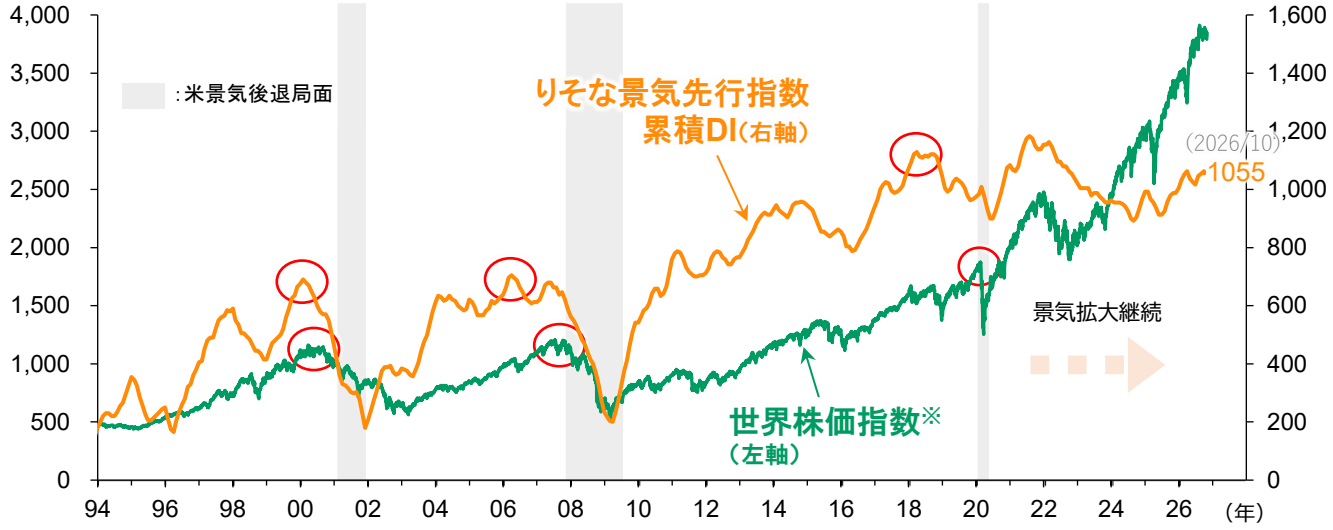
りそなのマーケットビュー

メインシナリオ：世界景気の拡大局面は継続、株式が債券に対し優位な投資環境

サブシナリオ：インフレ高止まりを背景に景気抑制水準まで利上げが進み、米国景気が減速

リスクシナリオ：米国が景気後退に陥り、債券が株式に対し優位な展開に

世界景気の先行きは「りそな景気先行指数」で見極めます



※MSCI-World 指数（現地通貨ベース）　※ブルームバーグ、Haver Analyticsの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

りそな景気先行指数とは？

世界景気の転換点をいち早く見極める分析ツールとして、りそなが独自に開発した世界景気の先行指標です。

●景気に対して先行して動くとされる国内外の12の指標を選定。それぞれの項目が3ヵ月前と比較して改善を示す指標の割合を算出した指数です。●この指数が50を上回れば（半数以上の系列が改善していれば）景気は拡張局面、50を下回れば後退局面と捉えます。●累積DIは各月のりそな景気先行指数から50を引いた数値を累積したものです（1992年5月＝0）。

● 注目指標 ●　供給ショックによるインフレの常態化と分散投資の必要性

過去10年間で米国のS&P500指数が直近の高値から15%超下落した局面は4回あります(右図)。いずれのケースも、株価の下げ止まりには米国の中央銀行・FRBの金融政策が大きく影響しました。具体的には、①と③では利上げ打ち止め観測、②では大胆な金融緩和、④は利下げ再開期待が株価底入れに寄与しました。

しかし、インフレ率が高止まりしている現在の環境下では、仮に株価が調整局面を迎えても「FRBによる迅速な救済」は望み難くなっています。例えば③のシャドーの局面のように、株価が下落している中でも、インフレ抑制のためにFRBが利上げを続けざるを得ない経済環境になることが考えられます。地政学リスクが顕在化しやすい現在の情勢においては、今後も「供給ショック」によるインフレが頻発する恐れがあります。その結果、FRBはインフレ抑制を最優先せざるを得ず、株価の調整がこれまで以上に長期化/大幅になることが予想されます。このような環境下で長期的に安定した資産運用を実現するためには、変動率の高い株式だけに投資を集中させず、値動きの異なる資産に幅広く分散投資することがこれまで以上に不可欠といえます。

S&P500指数と米国インフレ率、政策金利



1）シャドーの期間(直近高値から安値まで)の騰落率

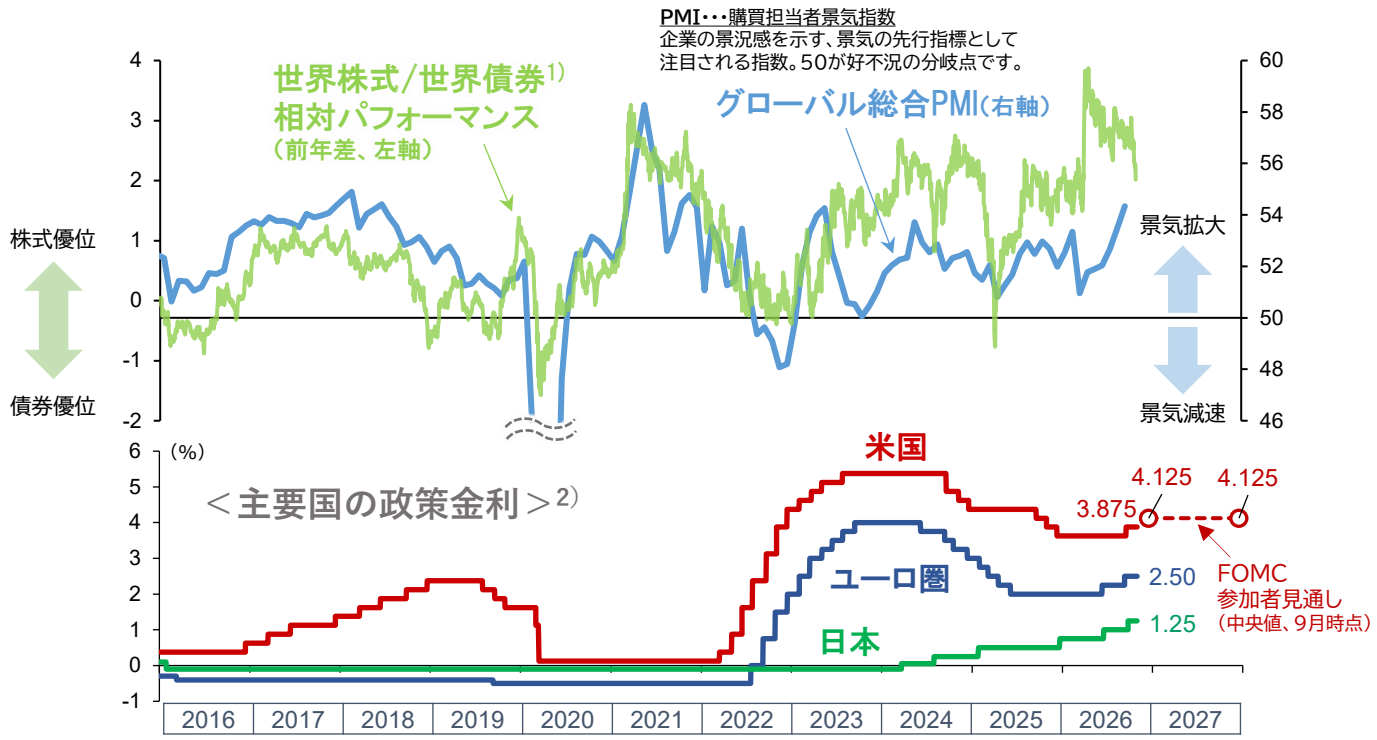
※ ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

短期見通し（今後1年程度）

当面の見通し

景気拡大と緩和的金融環境の併存で、株式などの成長資産の優勢が続く見通し

- グローバル総合PMIが分岐点の50を明確に上回り世界景気の拡大を示唆する一方、金融環境は米国の実質政策金利(政策金利－コアPCEデフレーター)が、米国GDP成長率を大きく下回るなど緩和的な状態が維持されています。グローバル投資環境は、景気拡大と緩和的金融環境が併存する状態が継続する見通しです。
- 他方、中東情勢の緊迫でエネルギー価格が高止まりするなか、主要国の金融政策を巡る不透明感などから、各市場のボラティリティ(価格変動率)が高まりやすい局面が続くと予想されます。このため、値動きが異なる複数資産への分散投資を徹底することが、中長期的に安定した運用成果につながると期待されます。



1) 世界株式：MSCI-World 指数（配当込み、現地通貨ベース）、世界債券：FTSE世界国債インデックス（現地通貨ベース）
2) 米国：FFレート誘導金利(中央値)、ユーロ圏：中銀預金ファシリティ金利 、日本： 2024年3月19日までは日銀当座預金金利（マイナス金利は日銀当座預金の一部に適用)、2024年3月21日以降は無担保コール翌日物金利
※FRB、ブルームバーグ、Haver Analyticsの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成

金融環境

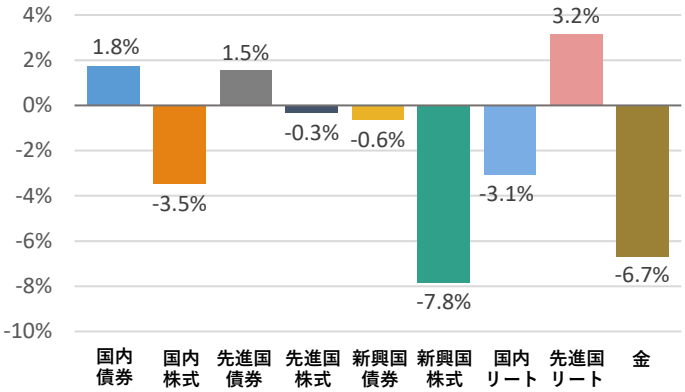
		● 今後の注目点 ●
米国	FRBは10月FOMCで政策金利の据え置きを決定。景気判断を「力強い拡大」に引き上げるとともに、金融環境はなお引き締め余地があるとの認識を示しました。	長期期待インフレ率の上振れリスクを抑制するため、追加的な調整利上げが12月に実施され、その後は据え置きと予想します。
欧州	ECBは10月理事会で政策金利を据え置きました。資金調達環境が引き締まりつつあり、物価と景気の双方に下押し圧力をもたらす可能性に言及しました。	景気の底堅さが維持された場合、物価上振れリスク抑制のため、12月に追加利上げが実施され、その後は据え置きと予想します。
日本	日銀は10月会合で政策金利を据え置きました。基調的な物価上昇率が目標の2%に到達したとの認識を示す一方、27年度物価見通しを上方修正しました。	基調的物価の2%定着を目指し、12月に追加利上げが実施され、更に、27年末にかけて政策金利を2%まで引き上げると予想します。

● 11月の重要イベント ●

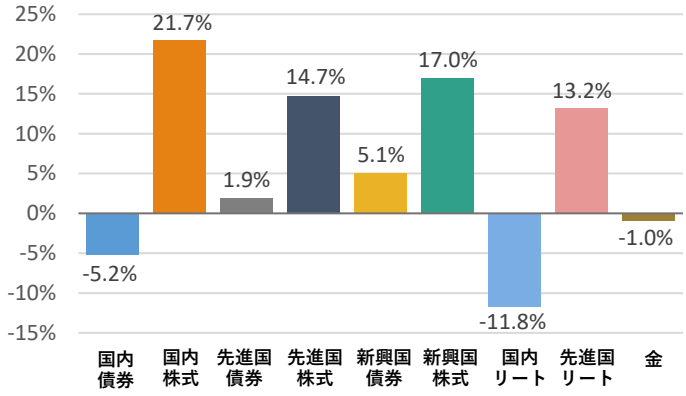
3日	米国　中間選挙	16日	日本　7-9月期実質GDP（速報値）
3日	豪州　金融政策決定理事会	18・19日	APEC首脳会議（中国 深セン）
5日	英国　中央銀行金融政策委員会	25日	米国　コアPCEデフレーター

10月末基準　各資産別　月間騰落率と振り返り（円換算ベース）

過去1ヵ月間



過去1年間



※ブルームバーグの公表データ等に基づき、りそなアセットマネジメントが作成。※国内債券：NOMURA-BPI総合、国内株式：東証株価指数（TOPIX、配当込み）、先進国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）、先進国株式：MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円換算ベース）、新興国債券：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円換算ベース）、新興国株式：MSCIエマージング・マーケット指数（配当込み、円換算ベース）、国内リート：東証REIT指数（配当込み）、先進国リート：S&P先進国REIT指数（除く日本、配当込み、円換算ベース）、金：米ドル建金スポット価格（円換算ベース）

国内債券

10年国債利回りは、前月末比▲28bpの2.78%と、7月末以来の水準に低下しました。世界的なリスク回避の動きを受け、株式市場からの資金移動や海外へ投資していた本邦資金の国内回帰により、買い優勢となりました。月末の日銀決定会合では、予想通り政策金利は1.25%で据え置かれました。

国内株式

AI関連投資の収益性を巡る懸念が世界的に広まり、日経平均株価は反落、東証株価指数（TOPIX）は続落しました。業種別では、AI関連株の比重が高い情報・通信業、電気機器や、金利低下による利鞘改善期待の後退で銀行業が下落する一方、小売業、医薬品などの内需・ディフェンシブ株が上昇しました。

先進国債券

米10年国債利回りは、月間で▲36bp低下し、4.93%で引けました。AI関連企業の資金調達や収益性への懸念が強まり、安全資産である米国債への買いが膨らみました。欧州では、財政赤字拡大や政治不安の高まりを受け、仏10年国債利回りは一時24年ぶりに5%超まで上昇しました。

先進国株式

米国では、AI関連株の下落が響き、S&P500指数とナスダック総合指数が下落する一方、NYダウは反発しました。全11業種のうち、情報技術・通信の2業種が下落、エネルギー・生活必需品など9業種が上昇しました。AI関連株の比重が低い欧州株は選好され、英・独・仏の主要株価指数は上昇しました。

新興国債券

新興国債券はマイナスで終わりました。原油高を背景に石油輸出国のコロンビアが通貨高で上昇した一方、ブラジルは左派のルラ大統領の再選を受け、債券・通貨共に下落しました。

新興国株式

新興国株式は続落しました。メキシコが米国との貿易協議進展期待で上昇した一方、半導体株の比重が高い韓国・台湾や、ルラ大統領が再選したブラジルの下落が目立ちました。

国内リート

東証リート指数は下落しました。金利低下が好感されて見直し買いが入る場面もありましたが、海外投資家の売りで需給悪化が継続し、年初来安値を更新しました。

先進国リート

先進国リート指数は上昇しました。世界的な金利低下を背景に8月以降の下落基調から反転しました。国別では米国・香港、業種別ではホテル・倉庫が指数上昇を牽引しました。

金

金スポット価格は、米利上げ観測に加え、AI関連株安の影響で投資家が損失補てんの換金売りに動くとの思惑が広がり、月初の4100ドル台から3800ドル台まで下落しました。

為替

ドル円は、中東情勢悪化に伴うドル買いとリスクオフの円買いが拮抗し、月間で15銭（0.1%）の小幅円安・ドル高となりました。対ユーロでは1.4%の円高となりました。

＜当資料に関するご注意事項＞
○当資料はりそなアセットマネジメント株式会社が作成した投資環境等に関する情報提供資料であり、販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。○当資料の作成にあたり当社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示されている当社の見通し、予測、予想、意見等（以下、見通し等）は、それぞれ作成時点のものであり、将来予告なしに変更されることがあります。また当社の見通し等は、将来の景気や証券価格等の動きを保証するものではありません。取引時期などの最終決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。○当資料に関わる一切の権利はりそなアセットマネジメント株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。
＜ファンドの設定・運用＞■りそなアセットマネジメント 商号等／りそなアセットマネジメント株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第2858号　加入協会／一般社団法人資産運用業協会